

週間展望・回顧(ドル、ユーロ、円)

April 5, 2024

ドル円、米 3 月 CPI に注目

- ◆ドル円、前年比で伸び率上昇予想の米 3 月 CPI に注目
- ◆本邦通貨当局の円買い介入の可能性や中東の地政学リスクに警戒
- ◆ユーロドル、ECB 理事会では政策金利据え置き見込み

予想レンジ

ドル円 148.00-153.00 円
ユーロドル 1.0600-1.1000 ドル

4 月 8 日週の展望

ドル円は、本邦通貨当局によるドル売り・円買い介入の可能性や中東の地政学リスクの高まりに警戒しつつ、米 3 月消費者物価指数 (CPI) を見極める展開となる。

米 3 月 CPI は、前月比 0.4%、前年比 3.5%と予想されているが、前月比は 2 月の 0.4%からは変わらず、前年比は 3.2%からの伸び率上昇予想。コア CPI は前月比 0.3%、前年比 3.7%と予想され、2 月の 0.4%、3.8%からの伸び率鈍化が見込まれている。

パウエル FRB 議長は、2 月の CPI が予想を上回る前年比 3.2%だったことに関して、「広範な軌道を変えることはない」との認識を示し、「年内どこかの時点で利下げを開始するのが適切になる可能性が高い」との認識を改めて示したが、3 月の CPI が予想通りに上昇した場合も同様の見解を示すのか注目しておきたい。

また、イランとイスラエルによる直接対決への警戒感が中東の地政学リスク懸念を高めており、リスク回避のドル売り・円買い要因となりつつある。ただ、第 5 次の中東戦争が勃発した場合は、原油価格の高騰が円安圧力を高めることになる。3 月の日銀金融政策決定会合では異次元の大規模金融緩和を終了したものの、「しばらくは緩和的な金融政策を継続する」との姿勢が示されたことで、日本株高・円全面安の展開となっているが、植田日銀総裁は「基調的物価上昇率がもう少し上昇すれば、短期金利の水準の引き上げにつながる」との見解を示しているほか、「為替相場が経済物価見通しに影響を与えるのであれば、金融政策での対処を検討する」と述べており、原油価格上昇と円安による「第 1 の力」が再浮上した場合への対応策には注目しておきたい。

ユーロドルは、欧州中央銀行 (ECB) 理事会では政策金利据え置きが見込まれており、6 月の利下げ開始に向けた協議に注目したい。ラガルド ECB 総裁は、「4 月末に発表される 1-3 月期の賃金データを見極めて、6 月理事会での利下げを協議する」と述べている。ただ、3 月ユーロ圏消費者物価指数 (HICP) が前年比 2.4%まで低下したことで、ハト派の委員が利下げ開始を主張する可能性が高まっており、予断を許さない状況となっている。

4 月 1 日週の回顧

ドル円は、米 10 年債利回りが 4.4%台まで上昇したことで 151.95 円まで上昇したものの、本邦通貨当局によるドル売り・円買い介入への警戒感や中東の地政学リスクへの警戒感から 150 円台後半まで反落した。ユーロドルは、ユーロ圏 3 月の HICP 速報値が前年比 2.4%まで低下したものの、パウエル FRB 議長が「最近高めのインフレ率が示されたことについては、より広範な軌道を変えることはない」との認識を示したことで、1.0725 ドルから 1.0877 ドルまで上昇した。ユーロ円は 162.79 円から 164.92 円まで上昇した後、163 円台半ばまで反落している。(了)